

タイトル:平成 30(2018)年度 教育セミナー(第 14 回)

日時:2018 年 9 月 13 日(木)~16 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室(303)

岩田七海(東京外国語大学大学院)

中東☆イスラーム教育セミナーは、AA 研の方々や授業でご一緒した先輩方から教えていただき、以前から興味を持っておりました。実際にセミナーに参加してみると、4 日間にわたって受講生や AA 研の先生方の多岐にわたる研究成果の発表を聞くことができる非常に有意義な時間であることが確認できました。発表の 1 つ 1 つに多くの時間と熱量が込められており、それらに圧倒されつつも、自分の知らない世界を開拓しているようで知的探究心がくすぐられる貴重な機会でした。

今回のセミナーでは、自分の研究を発表することはなかったのですが、受講生や先生方の発表から一番考えさせられたことは、自身の研究をどのようにその分野や地域、ディシプリンの異なる方々に理解してもらえようわかりやすく発表するかということです。ディスカッションの時間での質問には大きく分けて 3 タイプあり、1 つは単純な事実関係の確認、2 つ目は事実の詳細な情報提供、そして 3 つ目は内容が不明確な部分の説明でした。1、2 については発表者が持つ豊富な情報量から短時間で完結しますが、最も重要視すべきは 3 つ目の研究発表内容の明確化、わかりやすさにあると私は考えます。実際に発表を聞いていると、私自身は北アフリカのモロッコを政治学の観点から研究しておりますが、今回のセミナーではたまたま同様のフィールドをカバーしている方がいなかったため、理解が及ばないところや違和感を覚えることがありました。そこでなぜそのように感じるのか考えてみると、まずは自分の他地域や異なるディシプリンへの理解度が圧倒的に足りないことに気づかされました。同時に、自分が研究を行っていく上で、1 つのディシプリンにいかにか固執していたのかが明らかになりました。一方で、いざ自分が発表を行うとなると、このようなことに配慮して発表していこうと強く考えさせられました。その上で、先生方からの受講生の発表へのアドバイスは非常に有益なものでした。それらは聴講者の理解が及ばないところを的確に指摘し、その問題点や改善点を明らかにするものでした。なかでも私が自分に置き換えて重要だと感じたことは、論理の明確化と歴史的背景や実際の情報の共有です。前者は、問題提起からそれをどのように研究し、どのような結論を出すのかという一連の流れを 1 つ 1 つ詳細に組み立てていく必要があると考えました。その際、曖昧な言葉の使用を避け、出来るだけ単純化することが聴講者の理解の向上につながると思います。後者に関しても同様に、発表の前半である程度のバックグラウンドを全体で共有した上で研究内容を掘り下げていくと、その研究の意義や可能性をより理解してもらえるのではないかと考えました。

最後に、このような充実した知識の交流の場を設けてくださったすべての方々、誠にありがとうございました。今回の学びを生かして、次回はセミナーで発表ができるよう精進して参りたいと思います。